



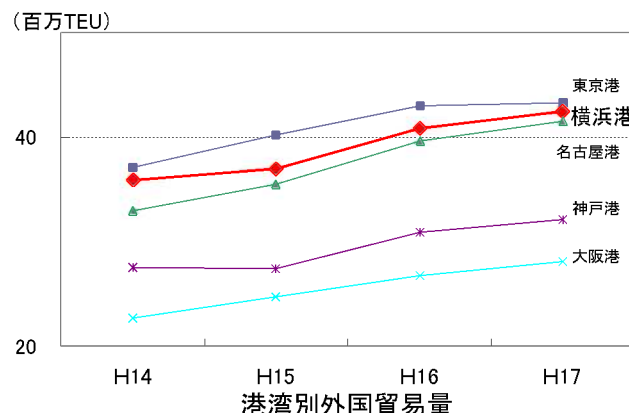
日本の産業を支える横浜港



●横浜港に早く運べるようにしたい

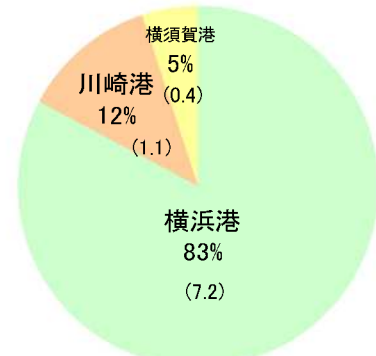
■横浜港の外国貿易量は国内2位

外国貿易量は、国内首位の東京港に迫る勢いで増加しています。



■横浜港は県内ナンバーワンの貿易港

横浜港の外国貿易輸出額は約7兆円となっています。



港湾貿易輸出額の割合 (兆円)

出典：神奈川県統計 (平成17年)

■横浜・川崎エリアには多くの工業団地が立地

横浜・川崎エリアには、約30箇所の工業団地が立地しています。



主な工業団地

番号	工業団地名	番号	工業団地名
1	本牧埠頭臨海産業用地	14	生麦ファクトリーパーク
2	相模湾臨海工業地帯	15	川崎臨海工業地帯 (千鳥町)
3	鶴見川河口工業地区	16	川崎臨海工業地帯 (浮島町)
4	大黒町工業地区	17	鶴見工業団地
5	横浜工業団地	18	浅野町工業団地 (1)
6	第1次戸塚中小企業工業団地	19	浅野町工業団地 (2)
7	第2次戸塚中小企業工業団地	20	横浜造船団地
8	横浜造船団地	21	横浜工業団地
9	金沢産業団地	22	かわさきマイコンシティ (南瀬川地区)
10	早瀬工業団地	23	かわさきマイコンシティ (栗木地区)
11	白山ハイテクパーク	24	大川町産業団地
12	横浜インナーパーク	25	川崎ゼロ・エミッション工業団地
13	東武ファクトリーパーク		

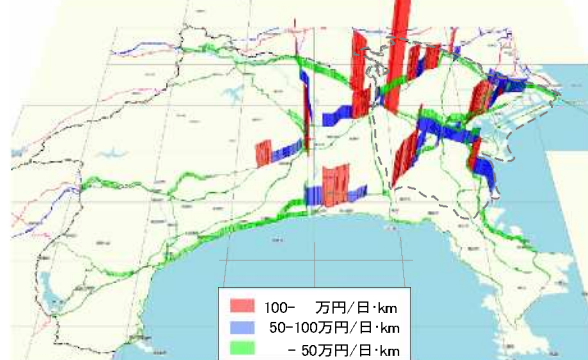
出典：神奈川県資料



横浜港コンテナパース

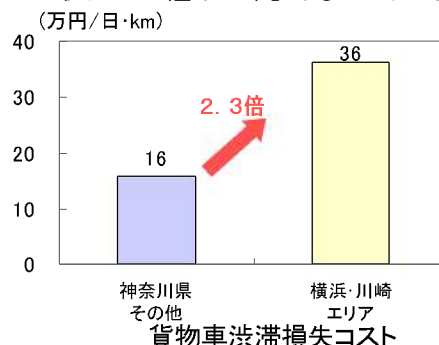
■横浜・川崎エリアは激しい貨物車渋滞が発生

横浜・川崎エリアは貨物車渋滞損失コストが高くなっています。



神奈川県の貨物車渋滞損失コスト

横浜・川崎エリアの貨物車渋滞損失コストは、県内他のエリアの2倍以上高くなっています。



出典：道路交通センサス (平成17年度) より算出

●横浜・川崎エリアの物流の効率化に貢献するみちづくり



■今後10年以内に供用予定の主な路線

【川崎縦貫道路】

国道15号と浮島を結ぶ8.4kmの一般部と自動車専用部からなる道路

供用目標
平成20年度 (殿町～大師)

【横浜環状北線】

第三京浜港北ICと首都高速横羽線生麦JCTを結ぶ8.2kmに自動車専用道路

供用目標
平成24年度

■整備を推進する主な路線

【高速横浜環状北西線】

東名高速横浜青葉ICと第三京浜港北ICを結ぶ7.1kmの自動車専用道路

【首都高速横羽線 石川町出口】

石川町JCT付近に出口を整備、次の整備効果が期待されます

(整備効果)

- ・横浜市南部から中華街・元町や関内地区へのアクセス向上
- ・周辺地区街路の渋滞緩和



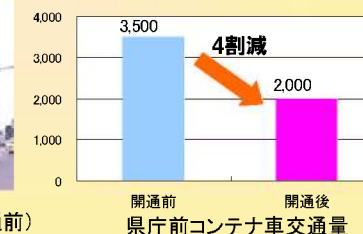
東京湾に隣する都市や港湾などを連絡する道路

(整備効果)

平成16年4月の横浜ベイブリッジ一般部の開通により、国道133号県庁前のコンテナ車等の交通が約4割減少



国道133号県庁前の状況 (開通前)



●目標：貨物車がスムーズに走れるようにします

エリア指標	H17現況値	概ね10年後
貨物車 渋滞損失コスト	36.2万円/日・km	約26万円/日・km

貨物物流渋滞損失コスト (円/日・km)

(対象路線：横浜・川崎エリアの国道以上の幹線道路)

$$= \frac{(\text{混雑時の所要時間 (時間)} - \text{渋滞がない時の所要時間 (時間)}) \times \text{貨物車交通量 (台/日)} \times \text{貨物車時間価値 (円/時間・台)}}{\text{道路延長 (km)}}$$